



痛くない中耳炎

中耳炎

耳が痛くなると真っ先に思い浮かぶのは中耳炎でしょう。痛みを伴う中耳炎は、鼓膜の向こう側にある中耳という器官に細菌やウイルスが感染して急性炎症を起こすものです。細菌やウイルスは、鼻の奥から耳に通じる耳管という管を通して中耳に入ります。鼻かぜや花粉症などの際に、頻繁に鼻をかんだり強くかんだりして、鼻汁が中耳に入り中耳炎を引き起こします。乳幼児は、大人に比べて耳管が短いので、鼻をかまなくても鼻汁が中耳に入りやすく中耳炎を起こしやすくなります。

痛くない中耳炎もあります。代表的なものとして幼児に多い滲出性中耳炎があります。かぜや鼻炎、ちくのう症などによる炎症で耳管が狭くなり、中耳の空気が交換できなくなることで発病します。耳管の働きが悪くなることで中耳に液体がたまり、鼓膜がうまく振動しなくなり難聴



になります。難聴以外にも耳の詰まった感じがしたり、自分の声が耳に響いたりします。小さな子どもは何も訴えないことも多く、周りの大人が聞こえが悪いことに気づくケースがよくあります。鼻とのどの間の上咽頭というところにアデノイドという組織があります。幼児はアデノイドが大人に比べて大きいので、耳管の入り口を圧迫して耳管が詰まってしまうこともあります。大人の場合は上咽頭が原因となる場合があります。中耳の骨を徐々に溶かし難聴が進行する、真珠腫性中耳炎も痛みが出ることはまれです。

耳の不調に気づいたときは早めに耳鼻咽喉科を受診しましょう。